

神奈川県中学校体育連盟バレーボール専門部
平成 25 年度 審判養成講習会（資料）

この資料は、平成 25 年 4 月 24 日付で(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部より配付されている「6 人制ルールの取り扱いについて 改定版(3 版)」の内容をまとめたものです。

[要旨]

平成 25 年度（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部における 6 人制ルールの取り扱いについて

1 オーバーハンドパスのハンドリング基準に関する事項

規則 9.2 ヒットの特性

9.2.4 サービスのレシーブでは、指を使ったオーバーハンドの動作でダブルコンタクトやキャッチをした場合は反則となる。

FIVB の発表(4/22)により、上記取り扱いが保留となった。これを受けて JVA 審判規則委員会でも、平成 24 年度の取り扱いのまま各競技会を行うことに決定した。したがって、中体連においても、このルールは適用しはしない。

2 リベロに関する事項

規則 19.3.2 リベロリプレースメント（入れ替え）

1. ラリーが、ノーカウントになったときは、リベロのリプレースメントはできない。
2. サービス許可のホイッスル前であれば、何度入れ替わっていても良い。
3. サービス許可のホイッスル後、サービスが打たれる前にリプレースメントした場合は、ラリー終了後、ゲームキャプテンに注意が与えられる。繰り返した場合は、プレーを直ちに止めて遅延の罰則が科せられる。この時のリベロの交代は認められない。ただし、この時、リベロがポジション 4 に残らなければいけなかったり、アクティングリベロがプレーをできなくなった場合は、ラリーが完了していなくてもリプレースメントが許される。

※ 中体連では、昨年度同様『リベロプレーヤーのシステムの取り扱い』について、何一つ変更はない。

19.3.2.9 不法なリベロリプレースメントは、(主に)以下の事例を含む。

- ・リベロリプレースメントの間に完了したラリーがないとき。
- ・セカンドリベロや入れ替わった選手以外と入れ替わったとき。

不法なリベロリプレースメントは、不法な選手交代と同様とみなされる。

不法なリベロリプレースメントが次のラリーの開始前に発見された場合は、審判員により訂正され、チームには遅延行為に対する罰則が適用される。

不法なリベロリプレースメントがサービスヒットの後に発見された場合は、不法な選手交代と同じ処置がされる。

1 不法なリベロリプレイメントが行われた時、アシスタントスコアラーは、サービスの許可のホイッスル後からサービスのヒットの前にブザーを鳴らし、指摘しなければならない。そして、チームには遅延の罰則が与えられ、元のポジションに戻し、リベロリプレイメントは認められない。しかし、リベロがポジション4に残らなければいけない場合は、リベロリプレイメントは認められる。

2 不法なリベロリプレイメントの指摘が、サービスのヒット後になってしまった場合は、不法な選手交代として処置をする。この場合も、元のポジションに戻すが、ラリーが完了しているため、その後のリプレイメントについては認められる。

※ (1)中体連では、不法なリベロリプレイメントをさせないことを原則とし審判にあたる。

※ **(2)サービスのヒット前であれば指摘し、制裁することなくチームに訂正させる。**

※ (3)サービスのヒット後に気づいた場合は、一般と同じ取り扱いをする。

<「リベロプレーヤーシステムに関する付則」を参照>

規則 19.4 新しいリベロの再指名

リベロが1人のチームで、リベロが失格や退場となった場合でも、そのチームは新しいリベロを再指名することができる。

1 リベロの再指名の方法は次のとおりである。

① 監督がブザーを押し、副審に、口頭で「リベロの再指名」を要求する（ハンドシグナルは示さない）。その時、リベロと再指名される選手は、リベロリプレイメントゾーンに、ナンバーパドルを使用する場合は、ナンバーパドルを持って準備をして立っていないなければならない。（再指名された選手はピブスを着るか、アクティグリベロと同じユニフォームを着る。しかし番号は自身と同じものを付ける。ピブスは各チームで準備する。）

◆リベロが、コート上にいるときでも、再指名することができる。

◆交代が遅れたり、準備ができていない場合は、拒否され遅延の罰則が適用される。

② 副審はホイッスルし、記録員にリベロの再指名の要求であることを口頭で伝える。この際ハンドシグナルは示さない。

③ 記録員は、再指名した選手が、リベロと交代した選手でないことをアシスタントスコアラーに確認し、片方の手を上げる。（リベロがコート上にいるときでもできる。）

④ 副審は、リベロの再指名を許可する。

⑤ 記録員は記録用紙の特記事項欄に、アシスタントスコアラーはリベロコントロールシートのコラムに、それぞれリベロの変更を記載する。

（記載例）

Aチームが第1セット13：14のときリベロの再指名の要求があった場合

（リベロNo.14、再指名の選手No.9）

<記録用紙> リベロの再指名/A/1（13：14）No.14→No.9

<リベロコントロールシート> リベロの再指名の記載欄に記載する。

⑥ 記録員は、アシスタントスコアラーの記載が完了していることを確認したら、両手を上げて副審に知らせる。副審は、主審に両手を上げて知らせる。

2 セット間にリベロの再指名をしたいとき、監督はリベロを再指名することを副審に伝える。副審はmスターティングメンバーの確認をした後、リベロの再指名の手続きを行う。

3 リベロとして再指名された選手は、試合を通じてリベロとして試合に出場する。プレーが続行できない（プレーの調子が悪い等）と宣言されたリベロは、再指名をした時点で、試合に戻ることはできない。

4 チームキャプテンがリベロとして再指名された場合は、以後は新たにチームキャプテンを指名する必要はない。試合中はゲームキャプテンがキャプテンの責務を担う。

5 試合終了後、リベロに再指名されたチームキャプテンが、記録用紙にサインをする。

規則 19.5 リベロの退場または失格

19.5.1 リベロが退場または失格となった場合は、直ちにセカンドリベロと入れ替わることができる。もしもチームに1人のリベロしかいない場合は、再指名することができる。

中体連においては、リベロ2名のうち1名が「けが・病気・不調・退場・失格」等のいかなる理由であっても再指名が可能である。(常時2名のリベロを持つことができる。)しかし、何らかの理由により交代させられたリベロは、その試合を通してリベロの権利を失う。また、生徒役員が行うアシスタントスコアラに混乱を生じさせないために、交代させられたリベロプレーヤーは、ジャージやTシャツ等を着用し、ベンチに座るかウォームアップエリア内にいなければならない(退場・失格の場合は指定の位置)。再指名されたリベロは、その試合を通じてリベロとしてプレーしなければならない。

※ 必要に応じて、チームに指導していく。

3 不法な行為に関する事項

規則 21.1 軽度の不法な行為

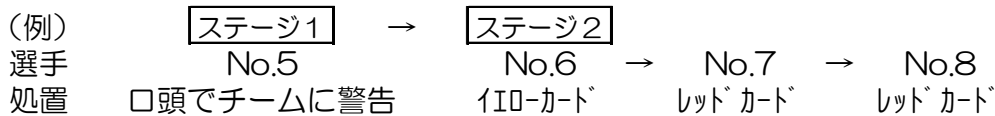
軽度の不法な行為は、罰則の対象にならない。主審には、チームが罰則レベルに達しないように防ぐ義務がある。

これは2段階で処置される。

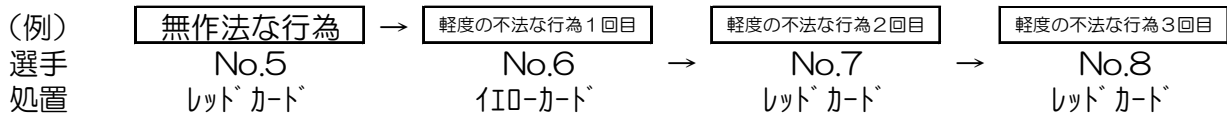
ステージ1： ゲームキャプテンを通じて口頭での警告をする。

ステージ2： 該当する選手にイエローカードを使用して警告をする。この警告はそれ自体が制裁ではないが、その試合においてそのチームメンバーが(さらにチームが)次からは罰則になることを示している。これは記録用紙に記録されるが、直ちに罰則を受けることはない。

- 1 チームの1回目の軽度の不法な行為があった場合は、ステージ1として処置する。ステージ1の警告は、チームに対して行い、ゲームキャプテンを呼んで口頭で警告を行う。この警告は1度限りである。記録用紙には記載しない。
- 2 チームの2度目の軽度の不法な行為については、イエローカードを示し、記録用紙に記載される。主審は、軽度の不法な行為を行った選手を呼び、イエローカードを示し警告する。
このイエローカードはチームに対して試合を通して1回だけである。したがって、その後同じチームのどの選手でも、再度軽度の不法な行為を行った場合は、レッドカードを示し反則とする。



3 チームに先に反則・退場・失格の罰則を適用した後に、同じチームが軽度な不法な行為を行った場合は、口頭での警告は行わず、上記の「ステージ2」から始まり処置を行う。



不法な行為に対する制裁方法の変更に伴い、中体連でも同様の取り扱いに変更する。

したがって、ゲームキャプテンを呼ぶケースは、リベロリプレイスメントの遅れを除き、両チームに対しての合計2回となる。(当該チームのみに口頭警告)

規則 17.1 負傷／病気

17.1.1 ボールがインプレー中で、もしも重大な事故起きた場合には、審判員は直ちに試合を止め、医療担当者が入ることを許可しなければならない。

ラリーはその後、やり直しとなる。

ラリー中に選手が負傷し、ラリーが中断され、ノーカウントとなった場合、その選手の選手交代は認められるが、タイムアウトは認められない。

5 スクリーンに関する事項

規則 12.5 スクリーン

12.5.1 サービングチームの選手は、1人または集団でスクリーンを形成し、サーバーおよびサービスボールのコースが相手チームに見えないように妨害をしてはならない。

スクリーンの反則が成立するのは、サービングチームの選手の妨害によって、サービスをレシーブする選手が、サーバーおよびサービスボールの軌道を隠されて、見えなくなる時である。

6 副審の責務に関する事項

規則 24.3 責務

24.3.2 試合中、副審は次のことを判定し、ホイッスルしてハンドシグナルを示す。

24.3.2.1 相手コートおよびネット下方の空間へ侵入したとき。(規則 11.2)

24.3.2.2 レシービングチームのポジションの反則のとき。(規則 7.5)

24.3.2.3 主としてブロッカー側のタッチネットの反則と、選手が副審側のアンテナに触れたとき。
(規則 11.3.1)

24.3.2.4 バックプレーヤーがブロックの完了をしたときや、リベロがブロックの試みをしたとき。または、バックプレーヤーやリベロのアタックヒットの反則のとき。(規則 13.3.3、14.6.2、14.6.6)

24.3.2.5 ボールが外部の物体に触れたとき。(規則 8.4.2、8.4.3)

24.3.2.6 ボールがフロアに触れて、主審がその接触を確認できないとき。(規則 8.3)

24.3.2.7 相手コートに向かうボールの全体またはその一部が副審側の許容空間外側を通過したとき、あるいは副審側のアンテナにボールが触れたとき。(規則 8.4.3、8.4.4)

1 バックプレーヤーの判定を確実にできるような見方、位置取りをする。

2 副審は、ネット上部の白帯の部分でも、ブロッカーが触れた場合は、タッチネットの反則のホイッスルをする。

※ 中体連において、副審の責務に関する適切な判定については、継続して「最重要課題」である。上級審判員を含め、謙虚な姿勢で研鑽していく必要がある。

7 選手交代に関する事項

規則 15.10 選手交代の手続き

15.10.4 チームが2組以上の選手交代を同時にしようとするときは、同一の要求とみなせるように、すべての交代選手が同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。この場合は、交代は1組ずつ連続して行われなければならない。もしも、そのうち1組が不法である場合には、正規の選手交代は許可されるが、不法な選手交代は拒否され遅延行為に対する罰則が適用される。

- ① 交代選手が準備できていない場合は、その要求は拒否され遅延の罰則が適用される。
- ② 複数の選手交代の要求をしたとき、1組の交代選手が遅れた場合、その交代は拒否される。
- ③ 複数の選手交代を要求したとき、組合せの中で不法な選手交代である場合と選手が準備できていない場合は、その交代は拒否され遅延の罰則が適用される。ただし、正しい交代や遅れていない交代は認められる。
- ④ 複数の選手交代については、1組目の記録が完了するまでは2組目はサイドライン上には立たせない。
- ⑤ 交代選手がサービスのホイッスル後にサブスティチューションゾーンに入った場合は、拒否をして不当な要求とする。
交代選手が、サービスのホイッスル後にサブスティチューションゾーンに入り、このとき副審がホイッスルしたり、記録員がブザーを鳴らした場合は、遅延の罰則が適用される。
- ⑥ 複数の選手交代のとき、パドルをベンチに取りにもどり再度選手交代を要求してきた場合は拒否され、遅延の罰則が適用される。

※ ナンバーパドルおよびブザーを使用しないときの競技者交代の手順

- ① 交代選手が、サブスティチューションゾーンに入ったら、副審がホイッスルし、ハンドシグナルを示す。主審もハンドシグナルを示す。
- ② 副審は、ポールのそばで選手交代をコントロールする。
- ③ 副審は、交代選手の方を向き、選手をサイドライン上に止まらせる。
- ④ 副審は、コート内の交代する選手に手を挙げさせる。
- ⑤ 記録員は、交代できることを確認できれば、軽く手を挙げて合図を送る。交代できない場合は記録員が手を横に振る。
- ⑥ 副審は、記録員を確認し、手で合図をして選手を交代させる。
- ⑦ 記録員は記録用紙を記入して、完了したら両手を挙げる。
- ⑧ 複数の選手交代の場合は、1組ずつ③から⑦の手順を同様に行う。

規則 7.3 スタートラインナップ

7.3.5.4 記録用紙の選手のリストに登録されていない選手がコート上にいることが発見された場合は、相手チームの得点はそのまま有効で、さらに1点と次のサービスが与えられる。間違いのあったチームは、登録されていない選手がコートに入った時点から得たすべての得点とセット（必要であれば0-25として）を失い、修正したラインナップシートを提出し、登録されていない選手がいたポジションに、登録されている選手を新たにコート上に送らなければならない。

セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合

- 1 副審はラインアップシートを監督に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、ラインアップシートどおりに変更するよう指示する。
- 2 監督がラインアップシートに記入されていない選手をコート上に残すことを要望する場合は、両チームのラインアップを確認後、副審は正規の選手交代を認めなければならない。この場合、監督は選手交代のハンドシグナルを示し、正規の選手交代を要求する。
- 3 この際、ラインアップシートどおりに選手をコートに戻す。
- 4 副審は、ハンドシグナルを確認後、ホイッスルをし、要求を受け付け、正規の選手交代を行い、記録員に選手交代を記録させる。

8 試合の遅延に関する事項

規則 15.2 遅延行為に対する罰則

- 1 ディレイワーニングの罰則は、イエローカードを他方の手首に当てたハンドシグナルで示す。
- 2 ディレイペナルティの罰則は、レッドカードを他方の手首に当てたハンドシグナルで示す。